

第62回島根県保育研究大会

記念講演

子どもを取り巻く環境の変化をふまえた今後の幼児教育の方向性

講師：東京大学名誉教授 日本保育学会会長 白梅学園大学前学長
一般社団法人 家族・保育デザイン研究所理事

汐見 稔幸 氏

11月17日、出雲市民会館にて開催しました「第62回島根県保育研究大会」から、前白梅学園大学学長汐見稔幸氏による記念講演の概要を紹介します。

○これからの時代は人工知能の登場によって人と人が直接関わらなくても用が済むようになってくる。でも人との深い関係が結べたときの喜びや人間関係の大切さは変わらない。しかも外国からたくさんの人に来て、その人たちと生活することが間違いなく増えてくる。これからは多様な文化を背景を持った人との関係も結んでいくことが必要な時代になっていく。そんな時代を見据えての保育指針の改定、学習指導要領の改訂だということを理解し、その時代をうまく生きていくために幼児期にどんな体験をすることが大事なのかを考えて保育をしてほしい。

○子どもが自主的にやってみようと思ってやる行為を支える脳の部位を「自分脳」、大人が褒めてくれるとか社会のルールに従って行動することを支える脳の部位を「社会脳」とすると、人は誰もこの2つの脳の部分を持って葛藤している。このうち、社会脳がより強く働くのが大人だと定義できる。子どもを少しずつ大人に近づけていくのが保育であるが、社会のルールや世間のしきたりを少しでも早く伝えて社会脳を鍛えていくのが保育かというところとちょっと違う。子どもの自分脳による行動には理由があるので、それを理解せずに大人の思いを伝えていくのではなく、子どもの自分脳の行動を保障し満たしてあげながら少しずつ社会のルールを伝えていくことが大事。絵を描くときでも、自分の描きたいように描くことで自分脳をより洗練させていく。そうすると次はもっと美しいものを描こう、大きなものを描こうという社会脳の気持ちが生まれてくる。そのように気持ちが育っていくのを無視して早く大人の世界、大人の評価に近づかせるように働きかけてしまうと、子どもはいろんなものが嫌いになってしまう。

○自分脳を十分に使っていくと、自分はどういうことが好きな人間なのかかわかってくる。それをさせずに大人の評価や価値観を押し付けていくと、世間には合わせられるようにはなるけど自分が本当に求めているものがわからなくなる。教育や保育の目的はたった一度きりの人生を輝かせて生きていけるように、自分は何が好きなのか、何をやりたいたいのかを見つけられるようにお手伝いをしてあげること。自主的に行動する自分脳を十分に発揮させることが教育で大切な理由だ。保育の一番の目的。世間に合わせるために早くから文字や数を教えていくことが目的ではない。自分脳を大事にして社会脳と折り合いをつけていくようにする、そのための体験を保障してあげることが大事。

○大人の都合で子どもを動かすのではなく、子どもの気持を考えて大事にしてあげる。そうすることでわがままな子になるんじゃないか、我慢ができる子にするためには早くから我慢させた方がいいのではないかという考え方は根強いが、それは逆。自分の気持ちを大事にもらって育った子は、わがままにはならない。信じてもらってきたことによって他者に対する信頼感ができ、そのことで人間関係を結ぶ力も強くなる。そのことを保護者にも伝えてあげるのも保育者の役割。

最後に、今回の保育指針改訂を受けて、知識だけでなく資質能力を育てるための目標を重層構造で作り上げてほしい、それをそれぞれの園で、職員みんなで考えて保育をおこなってほしいとまとめられました。

江津／あさりこども園／相山 慈



第62回

島根県保育研究大会

●期日：平成30年11月17日(土) ●場所：出雲市民会館・ニューウェルシティ出雲 ●参加者数：488名

オープニング



会長挨拶



出雲市長祝辞



提案者 益田市保育研究会 **助言者** 島根大学／肥後 功一氏

第1分科会

ふるさとにまみれて育つ～保育所・認定こども園から小学校へ～

約100名が参加した第1分科会は、益田市保育研究会が10年間取り組んできたふるさと教育の中で、「保小連携、接続」の実践と検証についての補足説明、グループワーク、そして助言者の島根大学 肥後功一先生の講義と言う流れで学び合いました。

グループワークでは「ふるさとへの思いを、保育段階→小学校→中学校…とつないでいくために大切なことは何か」について活発な討議が行われました。グループ討議を通して、地域の資源を保育に生かしていくことの大切さを再確認する場になったと感じました。

肥後先生は講義の結びとして、「これまで各園が模索しながら作り上げてきた幼児期ならではの豊かな遊びや地域での暮らしを大切にしていきたい。そして、日々の保育は何をめざしているのか、なぜその方法なのかを語る言葉をもってほしい」と投げかけられました。

そしてもう一つ、講義の中で参加者にこんな質問をされたことも印象に残りました。「これからの幼児教育はどうあるべきと思うか？ (1. 大きく変わる必要がある 2. 変わる必要はない 3. わからない)」と。皆さんはどう思われますか。しっかりと語れる保育者でありたいです。

益田／めばえ保育園 田中 文仁



提案者 江津市保育研究会

助言者 島根県幼児教育センター 浜田事務所
指導主事／金谷 直美氏
幼児教育アドバイザー／村田 淳子氏

第2分科会

子ども集団から見える 乳児期の育ち

第2分科会は、「子ども集団から見える乳児期の育ち」をテーマに、助言者として島根県幼児教育センター浜田事務所 金谷直美氏と同センター 村田淳子氏をお迎えし89名の参加者で開催されました。グループ討議では「乳児期においての物的・人的環境が子どもの育ちにどう必要なのか」を議題とし、「どのような環境を作りたいか」を提案者からの実践例を基にグループ同士でそれぞれ

意見を出し合いました。

保育環境の中で、「保育者との関わり方の大切さ、子どもの気持ちを切り替える場所等」子ども同士の関わり合い、共に育ち合い、安心して過ごせる環境を作っていくにはなど、具体的にこれからの保育へどう実践していくか議論されました。助言者の方より、「保育者や子ども同士の人的環境、そして物的環境を通して自発的・意欲的に学び、育つ場を作る事が大切。生活と遊びを通した様々な学びの積み重ねが重要。」などという研究発表で有ったと評価されました。そして「これら乳児の育ちを、どう小学校環境へつなげていくかが大切で有り、この分科会には幼稚園や小学校の先生方にも参加していただくことも良いのでは」とお話をされました。このように提案者、助言者の先生方の意見を交えて参加者それぞれが、これからの保育につなげていける分科会となりました。

益田／高津保育園 松尾 伸



第3分科会

提案者 かのあし保育協議会

助言者 島根県益田保健所
堀野 かおり氏

い・つ・つ・つ・つ ～子どもたちが幸せな大人になるために～

分科会の前半は、子どもたちが育てた大豆を使用しての豆腐・納豆作りの様子を家庭に知らせる事により、家での会話を楽しんでもらえている事や、地域の達人に教わりながら自然豊かな環境の中で四季を感じ旬を味わう子どもたちの様子など、地域との繋がりが深まった事例を補足説明として発表されました。その後、「食」について「家庭」とどんな関わりをもっているか?困っている事、工夫している事などの質問についてグループ討議を行い活発な意見交換をしました。最後に、助言者の堀野氏より「保育計画の中に食育を盛り込む事の大切さ」や「保育園は送迎時に保護者と話す機会が多いので繋がりがやすい」などのご意見を頂きました。かのあし保育協議会の皆さんの明るく元気いっぱい楽しい雰囲気の中で学び合い、そして繋がりを深めた分科会となりました。



邑智/
川本保育所
大澤 晃子



フリー発表 (第4)分科会

提案者

里山子ども園わたぼうし
園長/盆子原 拓

「環境を通して行う 保育」を考える

森のようちえんスタイルで運営している小規模保育事業所「里山子ども園わたぼうし」。森や地域に出かけ、自然の中で子どもの力を信じて見守る保育を実践している様子を聞かせてもらい、活動のベースを園舎にするのか、園外にするのかに関わらず、保育は同じことをしているのだなと会場の誰もが気づき、どんな保育を行っているのかもよく分かりました。

「環境」という言葉が指針の中で60個以上出てくることから、子どもが主体的に関わる環境を用意することが重要なのは明らかです。その環境について保育指針の原文をもう一度読んで確認し合い、「子どもたちにとってどんな環境を用意していくのか」「発表を聞いたことから自園でどんな環境設定をしていくか」を、12グループに分かれて討議しました。討議はとても盛り上がり、その後各グループの意見を共有しました。課題を明確にして各園からの参加者と話し合うことで、自園の保育を考え、振り返りのきっかけになったのではないかと思います。

邑智/高原保育園
木野下 睦



開催地提案 (第5)分科会

講師

松江赤十字病院小児科
島根大学小児科・子どものこころ診療部兼任/長谷川 有紀氏

家族の問題が子どもへもたらす影響

開催地提案(第5)分科会では、133名の参加者が集まる中「家族の問題が子どもへもたらす影響」と題し、松江赤十字病院小児科医の長谷川有紀氏を講師にお迎えし開催されました。

前半では愛着形成とは何か、そして愛着障害について学び保育所としてのどの様に関わっていくべきかを丁寧に指導いただきました。次に、事例を通して我々が成すべき事、課題や役割についての説明がなされました。

現在、子どもの心に及ぼす要因として、取り巻く環境の困難さ以外に、家庭生活や親子の関わりにも困難な状況を抱える事案が多く見受けられます。これは、都市部だけの問題ではなく、保育現場では関係機関との連携を進める中でその関わり方や、支援に対して頭を悩ませ、社会全体で取り組むべき問題となっている。

子どもの心の傷は園の中だけでは解消出来ない事も多く、我々の役割として相手に対し敬意を払いつつ、客観的な視点で関係機関と連携し支援を繋げていく事である。

最後に、心の距離を保ちはするが、一人ひとり大切に関係性を作っていける事が保育ならではの醍醐味であると話され、全員が共感出来た分科会となりました。

大田/みどり保育園 岩倉 善光



永年勤続表彰おめでとうございます



第62回島根県保育研究大会において
53名の方々が表彰されました

～先輩からこれからの若い世代へメッセージ～

永年勤続の表彰を頂きありがとうございました。

短大を卒業し、働き始めてもう18年がたとうとしています。

勤め始めの頃は、調理の仕方もあまりわからず、まして離乳食に対しては無知に近く、先輩の作り方を真似し覚えるのに必死の毎日でした。少しずつ慣れ、献立を立て、栄養面を任せられるようになる中で、栄養士としての専門知識を必要とされる時にしっかりと答えられるように、本を読んだり、研修会に参加させてもらい身につける事はとても大事なことだと、長年働いていると改めて感じます。そして、知識を共有しお互いの意見を言い合える関係を職員の中でも大切にし、給食特有の悩みや愚痴を相談できる給食メンバーがいることはとても心強いことです。

私は職場への通勤距離が遠く通うのも大変ですが、その中で2人の子育てをしながら仕事を続けてこれたのは、家族の支えと同僚の理解があったからだと思えます。

毎日時間に追われ給食を作るのはとても大変ですが、それでも子どもの声に耳をかたむけ、手を止め、寄り添える給食の先生でありたいと思っています。

松江／わかたけ保育園 藤原 裕子

この度は、永年勤続表彰を頂きありがとうございました。

ちょうど15年前、当園が民営化となると同時に、私もこの職場で、事務員として勤めさせて頂くようになりました。勤務しながら先生方が子どもたちのことを思い、考えながら日々保育をされている姿から、先生方の努力や頑張りを痛感し、私もそんな先生方のお手伝いが少しでも出来ればという思いになりました。事務職ではありますが、行事等の参加や保育のお手伝いをする機会を頂き、子どもたちや保護者さんと関わる事もあり、元気いっぱいの子どものエネルギーを吸収でき、毎日の活力となっています。

年々忙しさが増し、そんな中でもやりがいを感じられることができる仕事を頂き、先生方に声を掛けてもらえる安心でき、失敗や辛い事があっても励まされたり助けられたり、仲間として受け入れられていることも実感しています。上司や先生方に支えてもらっているから、こんな私でも15年間続けることができたのだと改めて思います。ひとりではない、みんながいてくれるから。そんな思いを心に抱き、沢山の方々に感謝し、日々の保育に協力していきたい。そして、これからもチームの一員として、子どもたちの成長を願いながら、笑顔忘れず日々過ごしていきたいと思っています。

益田／吉田こども園 栗山 紀江

勤続15年の表彰をして頂きありがとうございました。

短大を卒業し、保育士として働き始めた頃は「子どもたちと仲良くなれるかな?」「どんな遊びが好きなのかな?」と子どもたちの事ばかり思っていました。…が、働くということは、社会との関わりをもつことであり、同じ職場の職員の方々、保護者さんとの関係作りなど、沢山の困難な事があることに気づきました。

毎日、いろいろな事を学び、職場の雰囲気を見ながら、試行錯誤している日々です。

私が15年間、続けられたことは、日々一緒に悩んでくれたり、励ましてくれたり、一緒に笑って下さる方が周りにいるからです。

本当に感謝しています。

これからも、笑顔忘れずに、子ども達と関わってきたいです。

そして、学びを大切にしていきたいと思っています。

邑智／美郷町都賀保育園 岡田 美和

永年勤続表彰を頂きました。このように盛大に表彰を受けましたことを本当にうれしく、感謝の気持ちでいっぱいです。心からお礼を申し上げます。

思えば、20年という長い年月を、大好きな子どもたちと共に楽しく働くことができたのも、園長先生をはじめ職場の先輩方、同僚、保護者、子どもとたくさんの『ご縁』に囲まれた仕事だったからだと思えて感じています。私は、男性保育士ということで女性社会の中に飛び込んでいくのはとても勇気がいりました。もちろん、悩んだこと・困ったこともたくさんあります。でも、保育園はとっても大きな家族であるという自分の信念がここまで成長させてくれたのではと思っています。うれしいことも、悲しいことも、保育園にみんなで共感し、支えあえる仕事って本当に素敵なことではないでしょうか。周りには同じ気持ち、同じ願いを持った仲間がたくさんいます。これからも、大きな家族の一員として仲間を大切に、またこれからも出会うたくさんの『ご縁』に感謝しながら保育の道を進んでいきたいと思っています。

出雲／きんろう保育園 秋國 貴博

第53回全国保育士会研究大会

第53回全国保育士会研究大会は松江市で開催します。
よろしくお祈りします。

期 日：2019年 10月 24日(木)～25日(金)

場 所：くにびきメッセ



第52回全国保育士会研究大会(大分市)にて



編集
後記

新年明けましておめでとうございます。年末年始は、いかがお過ごしになりましたでしょうか。実家へ帰省し、ゆっくりと過ごされた方も多いと思いますが、私は「暴飲暴食」に気をつけながらお正月を過ごしました。

さて、会員の皆様は新年を迎えてあらためて気持ちをリフレッシュし保育現場で活躍されているのではないかと思います。総務広報委員会では、引き続き会員の皆様にご愛読頂けますように努力してまいります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。